

「働き方改革」等に関する企業等訪問（令和4年1月17日）

富山労働局では、県内企業の働き方改革の推進の一環として、企業を訪問し、先進事例・好事例を収集し情報発信をしています。

令和4年1月17日、富山労働局長、富山労働局雇用環境・均等室長ほか計4名で、下記の法人を訪問しました。

企業情報

株式会社ヨシケイライフスタイル

代表者：代表取締役社長 小竹 裕貴

所在地：砺波市太田 1889-10

従業員数：180人

事業内容：夕食宅配材料の製造、
卸販売



（株）ヨシケイライフスタイルからのメッセージ

弊社は、一般家庭へ夕食材料の宅配を行っている「ヨシケイ」グループ会社であり、販売会社「ヨシケイ富山」「ヨシケイ石川」「ヨシケイ岐阜」へ、材料セットの製造、卸販売をしています。

経営理念は「楽しい食卓、明るい家庭」。

CMでおなじみの「作る人から笑顔に」を実行できるように、よりよいサービスとは何かを考えて日々の仕事に取り組んでいます。

お客様がヨシケイのサービスを通して家庭の和を育み、仲良く幸せに過ごしてほしいと願うと同時に、社員の「ウェルビーイング＝幸福」のためにも、職場環境を整えていくことが重要だと考え、「働き方改革」についても積極的に取り組んでいます。



【小竹 智雄 常務取締役】

働き方改革等に関する取組

1 全体的な考え方

「働き方改革」については、人材開発室が中心となって情報発信し、各部署との検討会議で意見交換しながら進めている。令和4年1月現在、社員全員の年次有給休暇（以下、「年休」という）取得率は70%以上、年10日以上取得となっている。年休は半日単位での取得としているが、令和4年4月からは時間単位での取得が可能になるよう就業規則の変更を予定している。

工場は土日休みの完全週休二日制。昨年は外食よりも家の中での食事（中食）が進み、受注は10%以上増加した。コロナ禍でも、徹底した衛生管理の下で安定的に稼働している。



（写真右から順に）

取組について説明される
小竹常務取締役と人材開発室の金田室長、佐古田マネージャー、上島さん

2 取組内容

（1）DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

勤怠管理をクラウドシステム化した。各自がパソコンやスマートフォンでタイムカードの打刻をする。残業申請もオンライン化し、パート従業員の複雑なシフトの時間計算も自動でできるようになって、所定外労働時間の削減に役立っている。給与明細はペーパーレスとなった。

（2）年休取得率の向上（取得率は70%以上、年10日以上）

年休の取得増加に向けクラウドシステムで年休管理を行っており、休暇の取得申請もクラウドで可能。取得率の低い従業員には自動アラートで取得を促している。

従業員自身も気軽にクラウドから取得日数を確認できるので、「計画的に休みを取る判断材料にできて良い」という声が上がっている。

5日間の年休の確実な取得については、時季を指定しているほか、誕生日休暇（誕生日に年休を1日）の取得を促している。

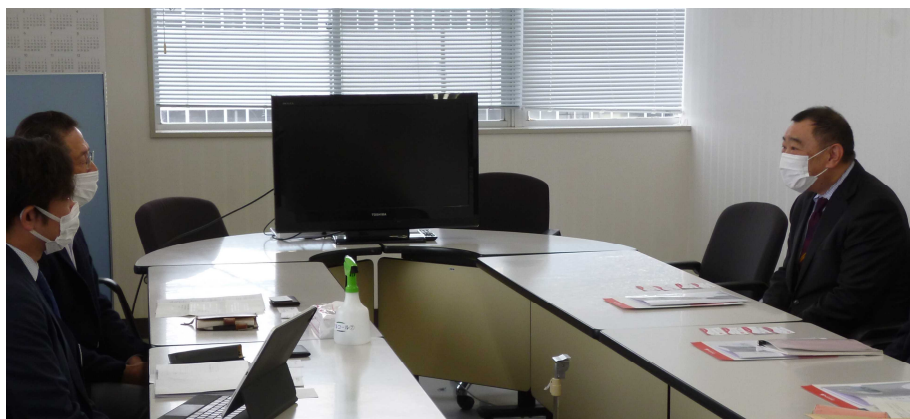
(3) 育児休業を取得しやすい環境づくり

女性の育児休業取得率は100%だが、男性の育児休業取得者はいない。女性が多い職場なので、対象となる男性が少なかったこともあるが、今後取得見込みの者が出てくる予定。

取得希望者が遠慮せず取得できる環境づくりのため、部署ごとに声掛けをしたり、誰が休んでも良いように周りがサポートする体制づくりを行っている。

(4) 女性の活躍推進

女性の多い職場であり、ヨシケイ富山等の配達営業所ではリーダーは全て女性である。不安の多い新規リーダーには、自社オリジナルのリーダーマニュアルを用いて数回にわたり研修を行い、自信をもって仕事ができるようにしている。



説明を聞く
杉 労働局長
(写真右)

3 取組の成果・課題

- 金曜日には金曜・土曜2日分の配達をしなければならなかったため、木曜日の仕事のボリュームが大きくなるが、全員の所定時間外労働がそれぞれ1時間以内で済むように、全体で取り組む意識が出てきた。
- 今までも、DXについて取り組んでいるつもりだったが、クラウドシステムを利用することで、その便利さや効果が実感でき、さらに積極的に進めていかなければ と思うようになった。
- 女性が管理職に就くことのハードルは下がってきているという認識。管理職になって良かったというロールモデルが広まれば、ハードルはさらに下がるだろう。
- 「働き方改革」に対する意識の浸透により、従業員一人一人の意識が変わってきている。プライベート時間の充実も必要だと考えており、会社側から健康づくり等の情報提供を行っていくことも検討中。会社全体の「ウェルビーイング」＝「幸福」を追求していきたい。